



附属図書館

研究や学習・教育に必要な高度学術情報の拠点

三重大学附属図書館は、平成25年3月にリニューアルされ、「研究支援機能」、「学習・教育支援機能」、「地域貢献機能」の3つの機能をサービスの3本柱に据え、研究や学習・教育に必要な学術情報を広く収集・提供しています。また、附属図書館内に研究開発室を設け、図書館サービスの高度化に取り組んでいます。



附属図書館外観



1階 コモンズエリア

● 附属図書館 ●

研究支援

- 電子ジャーナル
- 各種データベース

学習・教育支援

- 学生用図書・雑誌
- 多様な学習スペース
- 情報リテラシー講習会

地域貢献

- 学術資料の提供
- 各種展示・シンポジウム
- 機関リポジトリ

研究開発室

- 教室内外の学習環境のデザイン
- 情報リテラシー教育の設計・評価
- 所蔵資料に関する調査研究

附属図書館

電子ジャーナルやデータベースの充実

研究活動に欠かせない学術雑誌については、ElsevierやSpringerなどの電子ジャーナル1万5千タイトルや電子ブック（Maruzen eBook Library）を導入し、学内LANにつながったパソコンから24時間利用することができます。

同時に、引用文献情報データベースWeb of ScienceやSciFinderなどのデータベースも導入し、研究活動のインフラ整備を進めています。

学習環境の充実と情報リテラシー教育支援

館内にはシラバスに掲載された図書をはじめとする学習に必要な図書や雑誌を揃えるとともに、勉学に集中できる静かな閲覧席やグループ学習もできるラーニングコモンズ、インターネットに接続したパソコン（37台）を提供するなど、多様な利用目的に対応した学習環境を用意しています。

さらに、授業ともタイアップして、OPAC（蔵書検索データベース）や各種のデータベースの検索方法についての講習会を数多く開催し、学生の情報リテラシーの向上や習得を支援しています。

地域貢献

三重大学が保有する学術資料の公開・展示や、県内の図書館等関連諸団体への学術情報の提供を通じて社会貢献を行っています。また、大学の研究・教育の成果物を電子的に蓄積・保存し、インターネットを通じて発信する学術機関リポジトリを公開しています。

研究開発室

教育の質保証を視野に入れながら、ラーニングコモンズなど教室内外の学習環境をデザインしたり、高い学習成果を得られる情報リテラシー教育を設計・運用したりするために、調査研究を行い、実務者との調整をしています。

環境・情報科学館（Mie Environmental & Informational Platform : MEIPL）

平成24年4月に開館した【環境・情報科学館】

情報・環境科学館はアカデミックコモンズ*の一角で、附属図書館と一体化して、学生が新しい知を創出したり共有したりする場となります。

また、「世界に誇れる環境先進大学」を目指し、積極的なリーダーシップを発揮していく社会的な責任を掲げ、低炭素化社会の構築・形成過程を三重から日本、世界へ発信する中心施設となります。

1階は環境教育や研究・地域コミュニティとの交流スペース、2階は全面がラーニングコモンズ、3階は、廊下側の壁がないオープン・スクール形式の教室（PBL演習室）として機能しています。

※アカデミックコモンズ…… ヒトやモノを含むさまざまな情報資源と交流・協働することによって、知を生み出したり、その知を共有したりする場。



「環境・情報科学館」
（愛称：メープル館）

2階 利用者自身がデザインする学習空間

利用者間の情報共有や新しい発想を促すために、可動式の椅子やテーブル、ホワイトボードを備えており、利用者が必要とする学習空間を自分でデザインすることができます。電子黒板や学習法に関する基本的な文献も利用できます。PCステーションでは、必要な情報資源にアクセスしたり、入手した情報を分析・整理したりできます。また、プライベート感をもって課題探究活動ができるグループ学習室、ゆっくりとくつろいだり、談話したり、休憩したりするためのソーシャル・スペースもあります。

さらに、平成30年度からは、学生の多様な課題解決を大学院生が支援する「MEIPLサポートデスク」を設置し、利用者を支援しています。ICTサポートデスクでは、PC等に関する相談を受け付けており、ラーニングサポートデスクでは、地域資料の収集・活用方法や、レポートの書き方等に関する質問に応じています。

このように、2階には学生の学びを支える充実した学習空間と人的支援の体制が整っています。



2階 ラーニングcommons

3階 授業やゼミのための新しい教室空間

廊下側の壁がないオープン・スクール形式の教室空間は、それぞれのプライバシーを確保しながらも、お互いの気配を感じることによって、刺激しあえる空間となっています。可動式の椅子やテーブルを組み換えることで、多様な教育方法に対応できます。四方に壁のある教室空間では、新しいテクノロジーを活用しながら、小規模クラスの課題探究活動を促します。教員の教育活動を支援するティーチングcommonsも備えています。



3階 PBL演習室

情報基盤

学術情報基盤の整備・強化を図る拠点

三重大学は、電子情報受発信の拠点としての役割を担う学術情報基盤の整備と強化に取り組んでいます。

総合情報処理センター

三重大学総合情報処理センターは、ネットワーク基盤研究部門、教育情報システム研究部門、ネットワーク情報サービス部門の3部門からなり、情報システムの管理運用を行い、大学における情報基盤システムの構築ならびに維持発展のための情報基盤の戦略策定を行っています。

総合
情報
処理
センター

- ネットワーク基盤研究部門
- 教育情報システム研究部門
- ネットワーク情報サービス部門

ネットワーク基盤

円滑な教育研究活動・事務業務に不可欠である、高速で堅牢なネットワーク環境を全学に提供しています。パソコンを無線接続するためのネットワーク「モバイルLAN」を運用しており、これを利用して個人の持ち込みパソコンを接続することができます。

情報サービス

教職員・学生のアカウントを「統一アカウント」として一元管理しており、この統一アカウントでメールなど学内の各種システムを利用できます。

いくつかの有用なソフトウェアをサイトライセンス契約しており、三重大学構成員であれば誰でもMicrosoft Office Professional Plusを使用することができる他、ウィルス対策ソフトや研究用ソフトの提供も行っています。



教育支援

教育端末室（パソコン教室）を学内に開設し、パソコンを利用する講義や学生の自習に活用できるようになっています。また、ネットワークを安全に利用するための情報セキュリティ研修会を行っています。

「モバイル情報案内システム」では、講義に関するお知らせや休講情報などを学内の電子掲示板の他、携帯電話・スマートフォンや自宅のパソコンからも確認できます。パソコン必携化に合せて環境・情報科学館ラーニングcommonsにICTサポートデスクを設置し学習・教育での情報基盤活用を支援しています。



情報教育

全学部新入生対象に、三重大学の情報システムの利用法を学ぶ「情報リテラシー」や、ネットワーク社会におけるルールやマナーを学ぶ「情報倫理」の講義を実施しています。また教育用ICTツールなどの活用法を学ぶIT講習会を実施しています。

世界に誇れる環境先進大学を目指して

三重大学は「世界に誇れる環境先進大学」を目指して、「環境教育」・「環境研究」の実施、地域のニーズに対応する地域貢献、業務運営の合理化を図り、CO₂排出削減の低炭素キャンパス、3R活動による循環型キャンパス、産官学民の連携による自然共生キャンパスを構築、運営します。

■国際環境教育研究センター (Mie GECER : Global Environment Center for Education & Research)

国際環境教育研究センターは、本学の環境方針に基づき、環境教育・環境研究・地域貢献・業務運営の合理化に積極的に取り組む環境マネジメントシステムを主体として活動しています。

ISO14001 認証取得 (EMS構築・運営)

平成19年11月に、本学は日本の大学初となる全学一括の国際標準規格「ISO14001」認証を取得し、環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、現在は2015年度版の規格で運営しています。大学の社会的責任(USR)として、環境人材を育成する一方、環境に及ぼす負荷を最小限に食い止める環境活動を積極的に行っています。

3R活動 (Reduce/Reuse/Recycle) ・ 環境ISO学生委員会が主体となる活動

(1) Reduce (学内店舗のレジ袋ゼロ運動)

平成20年1月より生協でのレジ袋有料化を実施して99%以上の削減に成功し、平成21年10月には全国初のレジ袋ゼロのコンビニエンスストア(MINI STOP)が開店しました。

(2) Reuse (放置自転車・家電製品の再使用)

平成19年からキャンパス内の放置自転車を回収、修理して新入生や留学生に無償譲渡し、平成21年から卒業生の利用しない家電製品を回収、修理して留学生や新入生に無償譲渡しています。

(3) Recycle (古紙再生)

平成19年から古紙を回収し、三重大オリジナルのトイレットペーパーにリサイクルし、本学で使用するトイレットペーパーの約20~30%を賄っています。

産官学民の連携による町屋海岸清掃・生物多様性保全活動

本学に隣接する町屋海岸で、環境ISO学生委員会・教職員、地域住民(町屋百人衆)、地元企業、行政及び地元の小中学校との連携により、年5回海岸清掃活動及び三重県の準絶滅危惧種に指定されているハマニガナなどの海浜植物の観察会を実施し、環境教育・生物多様性保全活動を行っています。

また、平成26年度から松名瀬干潟においても三重県及び松阪市との協働により同様の活動を実施しています。



町屋海岸(清掃活動)



松名瀬干潟(生物観察会)

MIEUポイント

本学における環境活動を評価する取り組みとして、学生・教職員が行った省エネ活動や清掃活動などの個人における環境活動の見える化やインセンティブ制度である、MIEUポイントを導入しています。

省エネ等の環境活動をスマートフォンなどの携帯端末を用いて登録することで、ポイントを付与し、獲得ポイントに応じて、学生生活に必要な品物と交換することができます。

このMIEUポイントにより、自発的な行動を促すとともに、持続的な環境活動を促進します。



三重大大学は、創エネ（つくる）・蓄エネ（ためる）、省エネ（せつやく）によるスマートキャンパスを構築、運営しています。

スマートキャンパスの設備をエネルギーマネジメントシステムで最適に運用することにより、大幅にCO₂の排出を削減しています。

災害時においてエネルギーインフラ（電気・ガス）が停止した場合にも、再生可能エネルギーを活用することにより事前に選定した重要なエリアに安定電源を供給します。

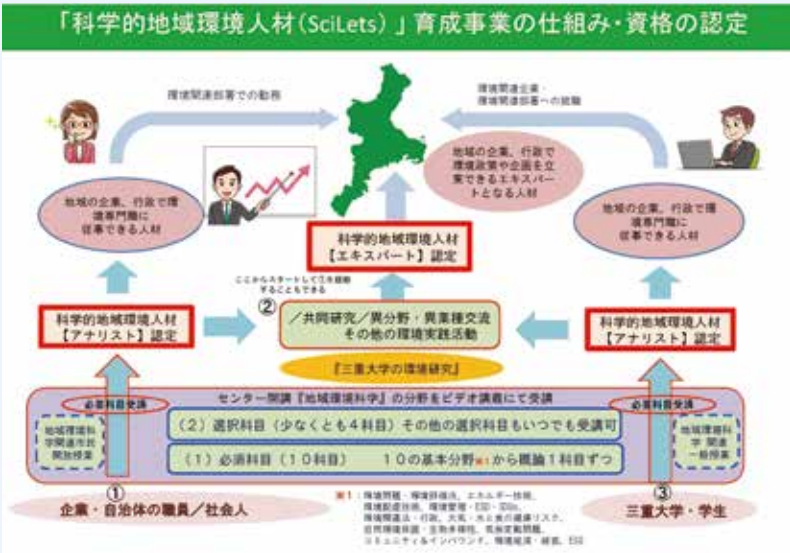
得られた成果から国内の大学や業務系施設に適用できるモデルを構築します。

科学的・地域環境人材育成事業は、環境を網羅的にカバーする講義群「地域環境科学」の基本10分野と選択科目の資格要件を満たした者に、「科学的・地域環境人材【アナリスト】」の称号を付与するものです。忙しい社会人の便宜を図るため、大学に通学しなくても遠隔地で受講できる、eラーニング（おもにビデオ講義や情報通信技術を用いた学習形態）の仕組みを導入しています。

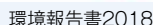
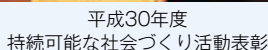
さらに、高度な「科学的・地域環境人材【エキスパート】」の育成は、On the Job Training（業務を遂行させる中で体系的に実施する教育）による環境実践の仕組みを利用して行うため、本事業の中に環境（技術）に関する「共同研究」や、「異業種・異分野交流」のハブ機能が組み込まれています。

なお、このような学習・教育システムは三重大学独自のソーシャルネットワーク（本事業においては SciLets（呼称：サイレッツ）と表します。）により運営され、この仕組みにより各人材は各資格取得後も横につながり、新たな知識の学習や活動を継続していくことができます。

また、本事業の有益性が社会に認められ、平成 30 年には「持続可能な社会づくり活動表彰 公益社団法人環境生活文化機構会長賞」と「第 1 回エコプロアワード奨励賞」を受賞しました。



本学では、1年間の環境に配慮した事業活動をまとめて環境報告書として公表しており、この報告書については環境コミュニケーション大賞（環境省、地球・人間環境フォーラム）を平成18年度（第10回）から平成30年度（第22回）までに10回受賞しています。そのうち、平成25年度から平成30年度は6回連続で受賞しています。その他の大臣からの賞として、平成21年に「平成20年度容器包装3R促進環境大臣賞」（環境省）、平成25年に「第22回地球環境大賞文部科学大臣賞」（フジサンケイグループ）、平成26年に「省エネ大賞（省エネ事例部門）経済産業大臣賞」（省エネルギーセンター）、平成27年に「第17回グリーン購入大賞環境大臣賞」（グリーン購入ネットワーク）、平成28年に「平成28年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」（環境省）、平成29年に「平成29年度地域環境保全功労者表彰環境大臣賞」（環境省）を受け、これまでに5年連続6回の受賞を受けています。





高度な医療提供と人材育成

三重大学医学部附属病院の基本理念

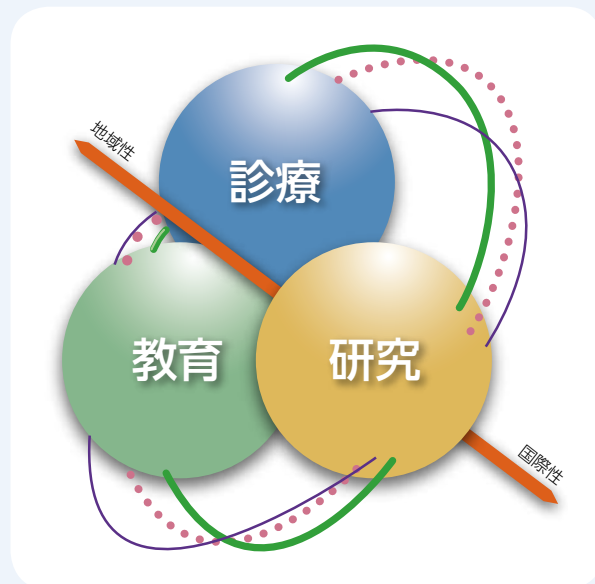
本院は、信頼と安心が得られる地域医療の拠点として、未来を拓く診療・研究を推進し、人間性豊かな優れた医療人を育成します。

《基本方針》

- 地域の拠点病院として、安全で質の高い先進的な医療を提供します。
- 臨床研修機関として、次代の担い手となる人間性豊かな人材を育成します。
- 新しい医療を目指す臨床研究を推進し、社会に貢献します。
- 医療・医育機関との連携・支援を推進し、地域医療の発展に尽くします。
- 疾病の予防を目指した教育・研究を推進します。
- 上記の基本方針を推進するために、健全で成長性のある病院経営を行います。

この基本方針に沿って

「優秀な人材が多く集まり、やりがいのある病院」を目指しています。



質の高い医療を提供できる病院であること

質の高い医療とはまず標準的な診断や治療を安全確実に行うことです。そのために総括的な医療安全管理部、感染制御部による医療のチェック体制を確立します。その基盤にたって高度医療を推進します。外部の委員を加えた医療の質・倫理検討委員会において治療の妥当性を評価します。

優れた専門医を養成できる病院であること

臓器別専門診療体制を充実し高度先進医療を推進します。これを基盤とする専門医のための教育カリキュラムを確立し、優れた専門医を養成します。

臨床研究環境の整備と研究者の研究倫理研修を推進し、最先端の臨床研究を実施できる病院であること

質の高い臨床研究を推進するため臨床研究開発センターを中心とする臨床研究支援体制を充実させます。

地域医療へ貢献できる病院であること

三重県内の関連病院との連携で中心的役割を果たします。特に遠隔地病院との連携において、教育スタッフを派遣し医療レベルの確保に積極的に協力します。

病院再開発事業が完了しました。

三重大学医学部附属病院は、新病棟が2012年、新外来棟が2015年に稼働し、2018年春には駐車場・外観工事も終了して、新しい三重大学医学部附属病院が完成しました。

新外来・診療棟▶



病棟・診療棟

